

# Structure Kansai No.126 2015.7

JSCA関西ホームページに会員皆様の意見、質問に答えるコーナーを開設しております。ご活用下さい。

## 2015年度(一社)日本建築構造技術者協会関西支部支部総会 5月22日開催



関西支部 支部長

「新任のご挨拶」  
清水建設株  
小倉 正恒

関西支部の皆さま、こんにちは。このたび安井さんの後任支部長に選任されました小倉です。よろしくお願いいたします。

構造設計の仕事に携わって32年、関西・東京での仕事を2:1で経験し今に至っています。今後、支部長という立場で支部運営の一翼を担わせていただきますが、先輩方が築いてこられたJSCA関西の温かき良き風を絶やすことなく、会員同士が切磋琢磨できる場を提供し続け、より多くの会員の皆さまが満足を感じていただけるような支部活動を心がけていきます。

非構造部材のことなど、相変わらず構造設計者の仕事の範囲は拡がり続けていきます。構造設計者が本当に知っておくべき必要十分な情報をタイムリーにわかりやすくお届けできればと思います。

新たに設置された大震研委員会をはじめ、精力的に行われている各種支部活動への会員の皆さまの積極的な参加、協力をぜひよろしくお願いいたします。



関西支部 副支部長

「JSCA建築構造士」  
株能勢建築構造研究所  
横田 友行

小倉正恒さんを支部長としてスタートする新体制において、昨年度に引き続き副支部長という大役を仰せつかり、重責を痛感しております。小倉支部長が目指される「多くの会員に喜ばれる運営」のために、微力を尽くす所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

実務経験が豊富な建築構造技術者が、一級建築士を取得した場合でも、取得後5年という長い実務経験を経なければ、構造設計一級建築士を受験することができないという今のシステムに疑問を感じます。

一級建築士を取得し、JSCAに入会し、JSCA建築構造士に合格すれば、構造設計一級建築士の受験要件である5年間の実務経験が免除または短縮されるようなシステムへ変更できれば、一級建築士のJSCAへの入会が増えて、JSCAのさらなる発展につながると思います。

これからも、建築構造設計事務所に在籍する技術者の視点で、小倉支部長と吉澤副支部長とともに、関西支部の活動を盛り上げたいと思いますので、よろしくお願い致します。



関西支部 副支部長

「支部活動への取り組み」  
株日建設計  
吉澤 幹夫

引き続き関西支部の副支部長を務めさせていただくことになりました吉澤幹夫です。過去2年間の反省と経験を生かして、小倉新支部長体制の下での支部活動の活性化に向けて尽力に努める所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2年前に副支部長を拝命した際には、2013年7月発行のStructure Kansaiでの新任挨拶において、次代を担う若手にとって構造設計が魅力的な職業と思える展望ある活動が重要との所信を表明しました。JSCA会員の平均年齢が55歳を超えている現在、この所信を再認識するとともに、小倉新支部長が目指されている、会員の皆さまがより高い満足感を得られる活動にも努めたいと考えます。

また安井前支部長は構造設計者が自信と誇りを持てる環境を築く支部活動を標榜されてきました。建築の構造設計は時代の要請に応えられる、正に自信と誇りを持てる職業だと思います。そのような中で時代の流れとともに高度化かつ多様化していく構造技術に関して、様々な切り口から研鑽の場を供することができるような活動にも注力したいと考えます。

## 定例研究会報告 「非(?) 構造部材の構造(?) 設計」



株ニュージェック

藤井 章男

### ■はじめに

5月22日(金) 建設技術交流館グリーンホールにおいてJSCA関西支部総会の後、「非(?) 構造部材の構造(?) 設計」と題した定例研究会が実施されました。JSCA関西技術委員会の耐震設計分科会を中心として6題からなる非構造部材に関する発表、および意見交換などが行われました。

### ■定例研究会の概要

#### 1. 2014年6月12日のJSCA提言を受けて

東日本大震災からの教訓として、JSCAでは、非構造部材、設備までを含めた建築全体の耐震化を目指す際に設計者が果たすべき役割を明確化してきました。それを受けて、今回、非構造部材設計の安全性を向上させる上では、意匠、構造、設備の各設計者および専門工事業者が各自の役割を遂行しつつ協働する必要があるとの提案が示されました。

また構造設計者が関わる必要がある場面を法律等も含めて整える事や、検討項目の増加に対する設計料の増額協議の必要性などに関しても言及されました。

#### 2. 非構造部材に関わる建築法規の動き

非構造部材の定義として「構造計算の対象となる部材以外のもの、あるいは構造耐力に寄与しない部材」と考えられています。ただ構造計算上で非構造部材と見なしている部材であっても現実的には主体構造と連続的に存在していたり(RC雑壁等)、「構造耐力に寄与しない部材」によって建築空間の多くが構成されている事は明らかです。

建築物の非構造部材についても、以前より建築基準法や施行令により構造安全性の確認が求められていますが、東日本大震災以降に「給湯器の転倒防止」、「エスカレーターの脱落防止」、「特定天井の新設と安全性確認方法の規定」、「その他エレベーターの地震時安全性の確認」が施行令・告示によって規定されるなど、構

造計算によって安全性の確認を求められる非構造部材が増加しています。しかし、構造設計者がそれらに対応することが現実的に困難な場合が多いのも、建築主が全てのものが安全に設置されていると思っている事も、共に現実です。

その中で組織(JSCA)として「非構造部材に対しては、法律によって規定する構造設計者の役割を実態に合わせるべきである」と提言し、社会への啓蒙(法律の改正、整備)を進める一方、構造設計者個人としても構造設計技術の修得と併せて法律の基本的な知識の修得が必要になる、との発表がありました。

#### 3. 外壁PCa板の実験報告

京都大学吹田先生より資料提供いただき、建物に大変形が生じた際の外壁PCa板の挙動および変位追従限界等を把握する為に実施された2つの大変形実験の結果報告がありました。

##### ①面内方向加力実験

実験では0.02radまでは変位追従するものの、以降はひび割れが進行し、0.35radで最大荷重に達した後、パネル下部のファスナー部が圧壊する。これらの実験結果からPCa板は、大変形時に「パネル同士の衝突」と「下部ファスナー部の圧壊」のいずれかを限界挙動として生じるが、発生する層間変形角はパネルの形状から予測が可能である。その中で大変形時にパネルを脱落させない為には、パネル衝突が生じない様に、下部ファスナーの圧壊を先行させるように設計する提案も示されました。

##### ②面外方向及びコーナー部加力実験

面外挙動については上部の取付アングルが早期に降伏して変形を生じるものの、パネルとしては0.34radまで脱落が生じない事が確認でき、かつ下部の台座ピンは大変形時においても抜出しが生じにくい。またコーナー部への実験においては0.17radまでパネルの脱落は生じない事が確認された。

今まで大変形時層間変形角として1/100を目安として評価されていた外装材ですが、それを超える大変形時挙動を構造設計者が知る事ができる非常に有意義な実験結果および限界挙動予想方法が示されました。

#### 4. 楽しい非(?) 構造部材=モニュメントの構造設計

主要構造部ではないものの、構造設計

者の創意工夫無しでは実現しないモニュメント類の構造設計事例が紹介されました。クジラ(HEP FIVE)、地球儀(某ホール)、操り人形(ブリーゼタワー)はいかに限られた拘束によって巨大な不整形工作物を安全に支持出来るか綿密に構造設計された事例でした。また、地震時に大きく揺れる照明などの吊り物の振動を制振構造を用いて抑制する事例も紹介されました。これらの様々な構造的手法を用いた「非構造部材」へのアプローチは、建物全体からすれば部分的ではあるものの構造設計そのものを感じさせるものでした。

#### 5. 特定天井の構造設計

東日本大震災によって大きな被害が発生した天井材の脱落に対して建築基準法に基づき規制が強化される中、具体的な安全基準の内容および安全検証ルートの説明がありました。また「OTO-LESS耐震天井」(竹中工務店×オクジュ)、 「グリッドサポート」(清水建設)、 「フェイルセーフリーリング」(大林組)など各社が提案する新しい耐震天井技術が紹介され、安全な天井を実現する実際の取り組みが示されました。新築、既設改修を含め、天井材の脱落防止を計画する事の難しさと同時に、それに構造設計が関わる事の必要性、重要性も感じました。

#### 6. 建築設備耐震設計・施工指針(2014)の紹介

普段、構造設計者が手に取る事のない建築設備の耐震設計に関する設計・施工指針の紹介。

建築構造では新築時に使用できないあと施工アンカーの強度記載や建築設備基礎の設計法、配管等の耐震対策、耐震支持方法の種類等が示されています。また付録として東日本大震災における建築設備の被害例が多く紹介されています。

「詳しい事は、本指針を買って読んでいただくのが一番良い」との建築センターの担当者の言葉通り、本指針に記載されている内容は普段の構造設計の中にも活かされるものが多いと感じました。

### ■おわりに

6題の報告からも明らかなように、非構造部材、建築設備の構造安全性の確保には、構造設計者の関与が不可欠ですが、(構造設計者だけでない)設計全体で具体的に現実的な取組み方を考える必要があると感じました。



## 第19回 若手技術者育成講座



前事業委員長  
小倉 正恒

今年も23名の若手とインストラクター延べ9名により、平成27年2月25日、大阪科学技術センターにて当講座が開催されました。下は参加募集の文面です。

### 21世紀の構造界を担う 若い技術者の皆様へ

建物の大きさと用途が決まれば、貴方は何造にしますか。

何処に柱を設けますか。

人によってそれぞれ違うと思います。

皆さんは、何を根拠に考えているのでしょうか。

日々悩んでおられるのではないのでしょうか。

忌憚なく集まった仲間を考えてみませんか。

人の構造計画を聞き自ら考えた結果を議論し、有意義な時間を過ごしませんか。

そのような機会を下記のように設定してみました。

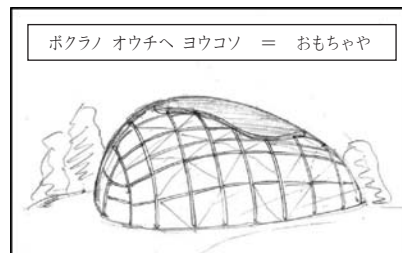
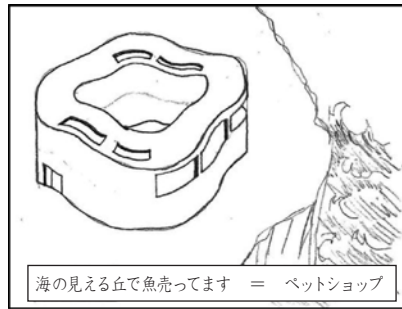
平成8年にスタートし今年で19回目となる当講座は、受講生4～5名でチームを組み「与えられた演習課題」に対して「構造計画」をまとめ、最後にその成果をプレゼンテーションするものです。演習課題は、GL-10mを境に上部N値5程度の粘土層、下部N値30程度の砂層の土地に建てる、延面積2,000㎡以下、天井高5.0mの「2階建て店舗」の構造計画です。

若い人たちにとって、初対面の他社の人とチームを組み、漠然とした課題を数時間でまとめ上げるというのは、貴重な体験であると同時に骨の折れる仕事だったことでしょう。講座の最後には、不安な表情ではありながらも達成感に溢れた様子でプレゼンテーションしてくれました。どれも力作でしたが、今年は5チーム中4チームが曲線、曲面を使った計画を提案してくれました。「今」という時代を感じました。2案ほどご紹介いたします。

とにかく受講生の皆さんには丸1日真剣勝負で取り組んでいただきまして本当にお疲れさまでした。

なお、上田博之・上森博・近藤一雄・佐藤茂・司馬勢也・嶋崎峻志・塚越治夫・村上陸太（敬称略）の皆さんにはお忙しい中、インストラクターとしてご協力をいただ

き、また、上田さんには演習前に構造設計の心構えについての講義をして頂きました。紙面を借りてお礼申し上げます。



受講生の皆さんからの感想文をいただきましたので、一部をここに紹介いたします。（（ ）内は構造設計経験年数）

◆グループでの演習課題というところが最大の魅力だったと思います。同年代の構造設計者の方と交流でき、自分の未熟さに気づかされました。また、普段は主に一貫計算プログラムや解析ソフトを用いて仕事を進めているため、構造設計の勘が養われにくいのはと気づきました。力の伝達経路や応力状態をスムーズに考えることができるよう、コンピュータに振り回されぬよう心がけようと思いました。

（事務所・5年）

◆普段の業務では、RC以外の構造種別の建築物を設計する機会が殆どないため、同グループの他社設計事務所メンバーとの会話、或いは他グループのプレゼンテーションの中で、皆の材料や工法に関する引出しの多さに刺激を受けました。今回のグループメンバーとは今後も情報交換を続けることで、普段聞くことのできない様々な情報を得て、構造設計者としての質を高めて行きたいと思いました。

（ゼネコン・7年）

◆私は構造設計を始めて4年目になりますが、このようなセミナーを受講するのは初めてでした。これまで構造設計について話せる機会は社内の人間とすることがほとんどであったため、他の設計事務所の方々とお話ししてみ、それぞれ考え方があ

ことを痛感しました。また今回の課題のように、ほとんど設計条件がない状態から1つの建物を計画していくということが普段の設計業務ではほとんどない為、建物を計画することの楽しさ、難しさ、1つのプランが形になることの達成感を改めて感じることができました。最後の懇親会ではインストラクターの方々のお話もたくさん聞いて、社内のつながりだけではなく、このような機会を知り合った他の事務所の方々のつながりを持つことで、いろんな考え方を共有でき、自分だけでなく周りもステップアップできるということが分かりました。今後もこのような講習でできたつながりを大切にしていきたいと思います。

（事務所・4年）

◆私が普段パソコン作業で行っている作図行為を、自分より若い設計者が紙にペンを走らせてスムーズに作図していく様子が非常に印象に残った。また、意匠設計者のようにスケッチを見せながら設計意図を説明する行為が自分の主張を相手に伝える手段として構造設計者にも有効であると強く感じた。今後は、質の高い構造設計者となるべく今まで以上に踏み込んだ設計業務を行い、多方面にもアンテナを張ることで幅広い知識を吸収することを目標に頑張っていきたい。

（ゼネコン・4年）



◆今回、講座に参加し、他の構造設計事務所の方々と「構造計画及び構造設計」をするという日常ではありえない貴重な経験をさせて頂きました。演習の中で、普段プログラムに頼りがちで自信をもって手計算で断面を決めきれないことが露呈し、自分の弱点を見直す良い機会になりました。また、同年代の同業他社の方の考え方、プレゼンテーション能力、構造に関する経験、手計算での断面算定等を間近で見ると、自分の長所、足りないもの、補わなくてはいけない能力等が自然と見えてきました。今以上の成長を考える事ができる機会を頂いたと感謝しております。

（事務所・4年）



**JSCA関西見学会  
「通天閣耐震改修工事  
現場見学会」  
（株）日建設計  
大谷 康二**

**■はじめに**

2015年4月8日、JSCA関西構造計画分科会の拡大分科会として、「通天閣耐震改修工事現場見学会」が開催されました。この工事は、通天閣の耐震・外装・設備改修を行うものであり、今回はこのうち耐震改修の部分を見せていただきました。本工事は補強工事を先行し、補強が完了してから既存躯体を切断することで、通天閣の営業を継続しながら行う免震レトロフィット工事です。

**■計画概要**

建築主：通天閣観光株式会社  
建築面積：881㎡  
延床面積：3,063㎡  
構造：S造  
建物用途：道路上建造物  
設計施工：（株）竹中工務店  
工期：2014.10.1から2015.6.30



**■耐震改修の経緯**

初代通天閣は1912年の第5回内国勲業博覧会を機に建立されましたが1938年に焼失。現在の通天閣は戦後の復興を願い、1956年に建立された2代目となります（設計は構造が内藤多仲博士、意匠・設備が竹中工務店）。

2012年に元施工者の奥村組が行った耐震診断の結果、「阪神・淡路大震災級の直下型地震では倒壊しないものの、展望台を直接支える鉄骨がゆがむ可能性がある」と判定されたことを受け、建築主は

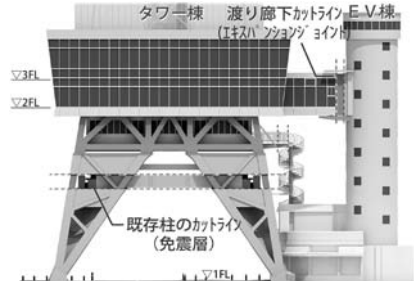
「Next210（ツーテン）プロジェクト」と題して初代通天閣が建てられた1912年から210年後に向け、登録有形文化財としての価値を維持していくことを目的に地震対策工事を決断されました。

そこで技術提案と見積を募集したところ、竹中工務店が提案する免震レトロフィット工法が次の点を評価されて採用されました。

- ・耐震、制震案に比べて揺れの低減効果が大きい（耐震改修の約3分の1）。
- ・耐震、制震案では塔上部の外観が部材の大断面化や制震ダンパーの設置で変わるが、免震案は上部に手を加えることなく登録文化財の建築物として現状の外観を維持することができる。
- ・塔上部を改修すると高所作業を伴い、繁華街を行き交う通行人に不安を与える。また免震案は営業を止めずに改修が可能。

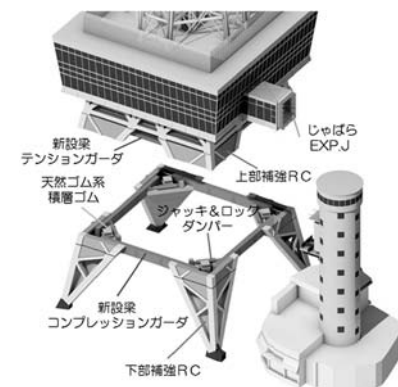
**■免震改修詳細**

免震層設置位置については、①展望室の上、②基壇、③地下、について検討した結果、本建物は2FまでのEVを別棟で設けていて、本体のEVは2Fより上にあることに着目し、②の位置に設けることとしました。



採用した免震デバイスは以下です。

- ・天然ゴム系積層ゴム：9,433kN×4基
- ・ジャッキ&ロック機構付オイルダンパー：1,000kN×4基（通常はロック状態で風に抵抗。地震時は加速度センサーでP波を感知しロックを解除。残留変位に対してはジャッキ機構をもつ。）



**■施工計画**

道路上建造物を営業を止めずに改修するため、道路上8mの位置に工事用ステージを組んで通行人が行き交う頭上で工事を実施。資材などはすべて夜間に搬入されました。



**■おわりに**

当日はご多忙の中、設計及び工事関係者の方々には大変お世話になり、ありがとうございました。

5月1日には支柱の最後の1本が切り離され、昨年10月からの免震改修工事を終了しました。また5月23日には初代通天閣にあった天井画を復刻した天井画が報道陣に公開されました。

本稿が皆さんの手に届くころには新しく生まれ変わった通天閣がお目見えしていると思います。



現状



改修後 復刻された天井画



## (仮称)吹田市立スタジアム新築工事 現場見学会参加報告



オリエンタル白石株式会社  
大阪支店  
島田 安章

### 1. はじめに

建物はスタジアム建設募金団体が建築主である西日本初の収容人員40,000人を誇る全観客席が大屋根で覆われた大規模サッカースタジアムである。

また、スタジアムは各種助成金および法人・個人の寄付金により建設することを目指している。

ここではJSCA関西により行われた2015年3月17日(火)の現場見学会について報告を行う。

### 2. 建物概要

工事名称：(仮称)吹田市立スタジアム  
新築工事

工事場所：吹田市千里万博公園23-1

階 数：地上6階

建物高さ約40m

敷地面積：90,065㎡

建築面積：24,650㎡

延床面積：66,355㎡

構 造：RC造・PC (PCa) 造・S造

建物用途：サッカー専用スタジアム

建築主：スタジアム建設募金団体

CM：株式会社安井建築設計事務所

設計・施工：株式会社竹中工務店

工 期：2013年12月1日

～2015年9月30日(22ヶ月)



鳥瞰パース

### 3. 見学会報告

モノレールの万博公園駅を下車し、徒歩でエキスポランド跡地を潜り抜けると万博公園外周道路を渡る歩道橋から、当現場の全容が姿を現す。従来スタジアムの75%の工期で進められている現場に

はクローラークレーンのブームが乱立していました。その姿を見ながら参加者の皆様との待合せ場所である現場作業所へと向かった。仮囲いで覆われた現場内部は、さぞかし慌ただしい状況かと思っただが、入口をくぐると外部からは想像もつかない整然とした現場であった。



現場全景

まずは現場事務所にて竹中工務店の方より、建物の設計および工事の概要説明をして頂きました。その後、場内に出て実際に現場を見ながらの質疑応答でしたが、活発に意見の交換が行われました。

地上躯体構造は梁を工場製作PCa工法およびサイトPC工法を積極的に採用し、柱はシステム型枠を採用した現場打ちとし、施工の合理化を追求しているため、通常の現場とは異なり型枠・支保工などは必要最小限にとどめられていた。



見学状況

当日の現場状況は地上躯体構造およびスタンドのPC段床版の施工は落ち着いた状況にあり、メインは免震装置と組合せた鉄骨屋根のメガトラスの架設でした。トラスはピッチとなる広場で組立てられ750tのクローラークレーンにて所定の位置に据付けられていた。鉄骨屋根は免震装置と組合せる事により30%の軽量化を図ったとのこと。メガトラスは架設時には仮受けをしており、屋根全体を組立てた後にジャッキダウンすることで、最大300mm程度の変形を想定しているとのことであった。



鉄骨屋根架設状況

マルチコプター(小型の無線操縦ヘリ)を導入することで、工事の記録映像の撮影や作業員への注意喚起などを行っていました。また、鉄骨屋根ではハトやカラスなどの鳥対策としても活躍しているとのこと。高所の苦手な私には最適なアイテムだと思いました。



マルチコプター

### 4. まとめ

躯体工事においては工場製作PCa・サイトPC工法を採用することで、施工の合理化が図られ、型枠・支保工などが必要最小限にとどめられており、現場は整然としたものであり、PC工法の良さが際立っていた。

スタンド上部の大屋根は鉄骨ゆえに成せる構造であり、鉄骨の良さを再認識させられました。また、免震装置との組合せにより安全性の向上と軽量化が図られていた。

見学中は場内ですれ違う現場職員の方をはじめ、協力会社の方々から心地よい挨拶を頂き、当現場の本当の良さを垣間見たと思います。

最後に、お忙しいなか説明をして頂きました竹中工務店の方々。また、取り纏めをして頂きましたJSCA関西の方々に書面をもって、改めてお礼申し上げます。

以上

## ■JSCA関西支部2014年度事業報告書

(2014年4月～2015年3月)

- 1.2014年度支部総会 5/23 建設交流館 出席者55名(委任状298通)
- 2.支部幹事会 5/13, 11/21
- 3.四役会 4/25, 5/13, 6/27, 7/25, 8/29, 9/26, 10/24, 11/21, 12/22, 1/30, 2/27, 3/27
- 4.事業委員会 4/22, 6/5, 6/26, 7/18, 7/31, 9/4, 10/28, 11/17
- 5.技術委員会 4/23, 5/9, 6/25, 8/29, 10/22, 12/16, 2/24
- 6.広報委員会 4/17, 7/17, 8/5, 9/19, 10/16, 1/15
- 7.耐震診断・補強判定委員会関西支部会 4/21, 5/15, 6/19, 8/21, 9/18, 10/16, 11/19, 12/18, 1/22, 2/19, 3/19
- 8.木造住宅レビュー委員会 4/2, 6/4, 8/6, 12/3
- 9.定例研究会 5/23 建設交流館「BIMなんて怖くない」 参加者160名
- 10.阪神・淡路大震災20年企画 1/14 建設交流館「震災の記憶-1995.1.17+20年」 参加者163名
- 11.JSCA法人化25周年記念事業支部巡回イベント 1/26 建設交流館「構造デザイン発表会・講演会」 参加者107名
- 12.大阪府域内陸直下型地震に対する建築設計用地震動および設計法に関する研究会  
 ・総会 11/29  
 ・幹事会 10/7, 11/10  
 ・専門委員会 5/10, 8/23, 11/29  
 ・報告会 3/12, 3/20  
 ・魚骨形骨組地震応答解析プログラム「fish」説明会 3/9  
 ・WG活動 WG1 4/16, 6/18, 8/12, 10/7, 11/10  
 WG2 4/28, 6/25, 7/31, 9/17, 11/7  
 WG3 4/30, 5/19, 6/2, 7/3, 7/28, 9/24, 10/30, 11/14, 1/13  
 WG4 4/5, 4/21, 5/27, 6/30, 7/29, 9/30, 10/27  
 WG5 4/18, 4/21, 5/28, 6/16, 6/27, 7/8, 7/28, 8/1, 8/5, 10/3, 10/17, 10/31, 11/10, 11/18, 11/21
- 13.見学会 6/19 (仮称)新・新ダイビル 現場見学 参加者30名  
 3/17 (仮称)吹田市立スタジアム 現場見学 参加者37名
- 14.視察研修 11/7～8 バイオマスツアー真庭 参加者19名
- 15.支部報 Structure Kansai No.121, 122, 123, 124 発行
- 16.技術委員会各分科会  
 ・地盤系分科会 6/12, 9/5, 12/5, 1/29, 3/6  
 ・RC分科会 4/15, 6/9, 8/18, 10/6, 12/12, 2/27  
 ・金属系分科会 7/2, 10/8, 1/28  
 ・耐震設計分科会 6/13, 9/26  
 ・PC・工業化分科会 4/18, 7/17, 10/15  
 ・木構造分科会 4/2, 6/4, 8/6, 10/1, 12/3, 2/4  
 ・法制分科会 4/16, 6/18, 8/20, 10/20, 12/9  
 ・構造計画分科会 5/8, 7/25, 10/22, 1/23  
 ・情報システム分科会 7/16, 9/17, 11/19, 2/28, 3/26
- 17.技術委員会拡大分科会  
 ・12/10「(仮称)吹田市立スタジアム見学会」(PC・工業化分科会)参加者52名  
 ・3/25「竹中大大工道具館 見学会」(木構造分科会) 参加者26名
- 18.サテライト活動  
 ・奈良会 9/27 奈良県森林技術センター 講演と見学会 参加者16名  
 ・兵庫会(活動なし)  
 ・京滋会 2/6 京都大学名誉教授 渡邊史夫先生 講演会  
 「鉄筋コンクリート構造の挑戦」参加者31名
- 19.定期講習会  
 ・7/26 科学技術センター 「阪神淡路大震災から20年」 参加者98名
- 20.講習会  
 ・「木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会」  
 4/2, 6/4, 8/6, 10/1, 11/5, 2/4, 3/4  
 ・「スキルアップセミナー」 10/3 参加者 25名  
 ・「2014年度JSCA関西実務者研修・基礎編」 3/17, 3/18 参加者 32名  
 ・「若手技術者育成講座」 2/25 参加者 23名
- 21.親睦会  
 ・定例研究会懇親会 5/23 建設交流館 参加者 94名  
 ・記念事業懇親会 11/26 建設交流館 参加者 74名  
 ・賀詞交歓会 1/14 建設交流館 参加者 115名
- 22.研究受託  
 ・大阪建築物震災対策推進協議会 限界耐力計算レビュー委託業務
- 23.他団体への委員・講師の派遣  
 委員の派遣  
 ・大阪市「大阪市耐震改修支援機構」 上田尚延, 野島千里, 横田友行  
 ・京都市「京町家耐震診断レビュー委員会」 榎原健一, 田村佳英  
 ・神戸市「建築構造専門審査会」 瀬川輝夫, 久森敏平, 山田正人  
 ・日本建築総合試験所「建築構造性能評価委員会」 近藤一雄, 田代靖彦, 山浦晋弘  
 ・日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」 上田博之  
 ・日本建築総合試験所「判定助言委員会」 小倉正恒, 近藤一雄, 西村勝尚, 安井雅明, 横田友行, 吉澤幹夫  
 ・日本建築総合試験所「建築技術性」 松尾雅夫  
 ・日本建築総合試験所「コンクリート工事実務研修委員会」 近藤一雄  
 ・大阪建築防災センター「耐震改修評価委員会」 緑川 功  
 ・大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」 安井雅明

- ・大阪府建築士会「CPDプログラム認定評議会」 横田友行  
 ・京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」 中森康正  
 講師派遣  
 ・大阪建築物震災対策推進協議会  
 「被災建築物の応急危険度判定養成講習会」 横田友行  
 ・大阪府建築士会他「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」 小倉正恒, 北山宏貴, 鈴木直幹, 横田友行  
 ・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(一般診断法)」 野島千里, 横田友行  
 ・奈良県建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」 榎原健一, 横田友行  
 ・福井県建築士会「ヘリテージマネージャー養成講習会」 榎原健一  
 ・愛知県建築士会「ヘリテージマネージャー養成講習会」 榎原健一  
 ・鹿児島県建築士会「ヘリテージマネージャー養成講習会」 榎原健一  
 ・和歌山県建築士会「ヘリテージマネージャー養成講習会」 榎原健一  
 ・奈良県建築士会「ヘリテージマネージャー養成講習会」 榎原健一  
 ・大阪府建築士会「ヘリテージマネージャー養成講習会」 榎原健一  
 ・宮崎県建築士会「ヘリテージマネージャー養成講習会」 榎原健一  
 ・兵庫県建築士会「ヘリテージマネージャー養成講習会」 横田友行  
 ・尼崎市「建築技術研修会」 九嶋壮一郎, 熊野豪人, 西崎隆氏, 前川元伸, 増田寛之, 村上陸太
- 24.関連団体との交流  
 ・在阪建築関連15団体事務局会議 9/10, 3/18  
 ・在阪建築関連15団体会長・支部長午餐会 10/27  
 ・在阪建築関連15団体2015年新年交代会 1/5

## ■JSCA関西支部2015年度事業計画書

(2015年4月～2016年3月)

- 1.2015年度支部総会 5/22 建設交流館グリーンホール
- 2.支部幹事会 5/15, 秋頃実施予定
- 3.四役会 4/24, 5/15, 6/26, 7/24, 8/28, 9/25, 10/23, 11/27, 12/18, 1/29, 2/26, 3/25
- 4.事業委員会 4/23, 秋頃実施予定
- 5.技術委員会 4/27, 以降1回/2ヶ月 開催予定
- 6.広報委員会 1回/各季 程度
- 7.大震研委員会 随時実施予定
- 8.構造レビュー委員会 随時実施予定
- 9.木造住宅レビュー委員会 4/1, 以降随時実施予定
- 10.耐震診断・補強判定委員会関西支部会 4/16, 以降1回/月 実施予定
- 11.定例研究会 5/22 建設交流館グリーンホール
- 12.新年活動報告会 1月実施予定
- 13.現場見学会 随時実施予定
- 14.視察研修 1回/年 実施予定
- 15.支部報 Structure Kansai No.125, 126, 127, 128 発行予定
- 16.技術委員会各分科会  
 ・地盤系分科会 6回/年 程度実施予定  
 ・RC分科会 6回/年 程度実施予定  
 ・金属系分科会 6回/年 程度実施予定  
 ・情報システム分科会 6回/年 程度実施予定  
 ・耐震設計分科会 6回/年 程度実施予定  
 ・PC・工業化分科会 6回/年 程度実施予定  
 ・構造計画分科会 6回/年 程度実施予定  
 ・木構造分科会 6回/年 程度実施予定  
 ・法制分科会 6回/年 程度実施予定
- 17.技術委員会拡大分科会  
 ・構造計画分科会 4/8,  
 ・各分科会により1回/年 程度実施予定
- 18.サテライト活動  
 ・奈良会 1回/年 程度実施予定  
 ・京滋会 1回/年 程度実施予定  
 ・兵庫会 1回/年 程度実施予定
- 19.賛助会員技術交流会 随時実施予定
- 20.講習会  
 ・「木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会」  
 4/1, 以降随時実施予定  
 ・「JSCA構造設計若手実務者研修」 秋頃実施予定  
 ・「定期講習会」 7月実施予定  
 ・「若手技術者育成講座」 2月実施予定  
 ・「スキルアップセミナー」 夏頃実施予定
- 21.親睦会  
 ・支部総会懇親会 5/22 建設交流館  
 ・賀詞交歓会 1月実施予定
- 22.研究受託  
 ・大阪建築物震災対策推進協議会 限界耐力計算レビュー委託業務
- 23.他団体への委員・講師の派遣  
 委員の派遣  
 ・大阪府「大阪府耐震改修促進計画審査会」 横田友行  
 ・大阪市「大阪市耐震改修支援機構」 上田尚延, 野島千里, 横田友行  
 ・神戸市「建築構造専門審査会」 瀬川輝夫, 久森敏平, 山田正人



- ・京都市「京町家耐震診断レビュー委員会」 榎原健一, 田村佳英
  - ・日本建築総合試験所「判定助言委員会」 小倉正恒, 近藤一雄, 西村勝尚, 前野敏元, 横田友行, 吉澤幹夫
  - ・日本建築総合試験所「建築構造性能評価委員会」 近藤一雄, 田代靖彦, 山浦晋弘
  - ・日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」 上田博之
  - ・日本建築総合試験所「建築技術性能認証委員会」 松尾雅夫
  - ・日本建築総合試験所「コンクリート工事実務研修委員会」 上森 博
  - ・大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」 未定
  - ・大阪府建築士会「CPDプログラム認定評議会」 横田友行
  - ・京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」 中森康正
- 講師派遣
- ・大阪建築物震災対策推進協議会 「被災建築物の応急危険度判定養成講習会」 福本義之

- ・大阪府建築士会他「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」 小倉正恒, 北山宏貴, 鈴木直幹, 横田友行
- ・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(一般診断法)」 野島千里, 横田友行
- ・奈良県建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」 榎原健一, 横田友行
- ・和歌山県建築士会「ヘリテージマネージャー養成講習会」 榎原健一
- ・鹿児島県建築士会「ヘリテージマネージャー養成講習会」 榎原健一
- ・奈良女子大学非常勤講師(木造) 未定
- ・尼崎市「建築技術研修会」 未定

24. 関連団体との交流

- ・建築関連15団体事務局会議 秋頃
- ・建築関連15団体会長・支部長午餐会 秋頃
- ・建築関連15団体2016年新年交流会 1/4

2014年度決算報告書(案) (自:2014年4月1日 至:2015年3月31日) 一般会計

勘定科目	予算	実績	備考
事業収入	1,000,000	2,066,419	
調査研究費収入	1,000,000	2,068,419	
調査研究費収入	1,000,000	1,065,590	本会議費, 若手講習, 取組研修
調査研究費収入	0	803,339	CD-指針本編成, 5/16・20・21・22懇親会, 日産預金利息
調査研究費収入	0	200,000	本誌との協成金
その他の収入	1,154,000	1,672,437	
借入金収入	1,100,000	1,668,000	11/20法人化設立25周年, 1/14賀詞等
利息収入	54,000	4,437	
利息収入	4,000	4,337	
雑収入	50,000	0	
特別会計繰入金収入	300,000	0	
本部交付金収入	4,326,000	4,326,000	本誌からの交付金
事業活動収入合計(A)	8,780,000	8,064,858	
事業費支出	4,500,000	8,940,058	
調査研究事業費	3,450,000	8,002,743	
調査研究費	450,000	368,838	
調査研究費	1,000,000	1,242,996	定例研究会, 拡大分科会, 若手講習, 本会議費, 取組研修等
調査研究費	2,000,000	5,423,567	資料本制作, WC, 報告会, 懇親会等
調査研究費	0	969,232	11/26法人化設立25周年, 1/14取組研修20周年企画・文庫印刷
調査研究費	0	0	
調査研究費	1,000,000	922,330	3/17・18・19関西行
調査研究費	50,000	14,985	
調査研究費	20,000	0	
調査研究費	30,000	14,985	11/26法人化設立25周年参加費等
管理費支出	3,480,000	4,456,817	
事務費	1,470,000	1,465,548	
消耗品費	440,000	433,982	一般会計として総額の70% (注)の科目他
通信費	150,000	189,000	一般会計として総額の70% 電話代等
事務機器費	480,000	911,482	一般会計として総額の70% 機器3台, のためハード基本料等
雑費	0	2,660	
雑費	490,000	275,233	5/16・20・21・22懇親会, 11/20法人化設立25周年, 1/14賀詞等
雑費	1,180,000	1,789,755	5/16・20・21・22懇親会, 11/20法人化設立25周年, 1/14賀詞等
雑費	60,000	51,485	
雑費	30,000	7,070	幹事会, 西分科会
雑費	1,100,000	1,211,101	11/20法人化設立25周年, 1/14賀詞等
雑費	830,000	1,221,504	
雑費	130,000	207,192	一般会計として総額の70%
雑費	700,000	1,013,712	一般会計として総額の70%
事業活動支出合計(B)	7,980,000	13,398,779	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	-1,200,000	-5,332,919	
投資活動収入(D)	2,000,000	6,199,288	
特定預金取崩収入	2,000,000	6,199,288	11/26法人化設立25周年記念行事費 ¥699,232, 記念行事収入 ¥200,000
特定預金取崩収入	0	770,000	大蔵研支出: ¥5,423,567+特種本料金 ¥1,721
特定預金取崩収入	2,000,000	5,423,567	
投資活動支出(E)	600,000	801,339	
特定預金積立	600,000	801,339	
特定預金積立	200,000	200,000	大蔵研収入: ¥801,339
特定預金積立	200,000	200,000	
特定預金積立	200,000	200,000	
特定預金積立	200,000	200,000	
特定預金積立	0	0	
特定預金積立	0	0	
投資活動収支差額(F)=(D)-(E)	1,400,000	5,397,949	
予備費(G)	200,000	0	
当期収支差額(H)=(C)+(F)-(G)	0	83,929	
前期繰越収支差額(I)	7,274,586	7,274,586	
次期繰越収支差額(J)=(H)+(I)	7,274,586	7,348,516	

特定預金の増減・通帳残高との照合

種類	前期未残高	増加(繰上収入)	減少(取崩・支出)	当期末残高	当期末通帳残高
調査研究費積立	7,100,000	0	0	7,100,000	7,100,000
事務所整備費積立	6,100,000	0	0	6,100,000	6,100,000
記念行事積立	5,720,000	0	770,000	4,950,000	4,950,000
大蔵研積立	6,707,327	801,339	5,429,288	2,079,378	2,079,378
合計	25,627,327	801,339	6,199,288	20,229,378	20,229,378

2014年度決算報告書(案) (自:2014年4月1日 至:2015年3月31日) 特別会計

勘定科目	予算	実績	備考
事業収入	2,100,000	1,459,400	
構造レビュー等事業収入	1,500,000	950,400	レビュー(注)
研究費収入	0	0	
調査費収入	600,000	509,000	3/17・18・19関西行, 実務研修基礎研修
その他の収入	3,407	1,331	
受取利息	1,000	1,331	
雑収入	2,407	0	
一般会計繰入金収入	0	0	
本部からの受入収入	8,392,593	11,654,000	本誌からの受入収入 ※本誌からの受入収入, 事務所整備費支出等計 ¥11,654,000
事業活動収入合計(A)	10,496,000	13,114,731	
事業費支出	6,190,000	6,686,257	
構造レビュー等事業費	5,940,000	6,329,919	
人件費	0	0	
事務費	440,000	359,794	1/14調査費, 資料等送付等
レビュー費	5,000,000	5,970,125	本誌編集費, 印刷費, 謝辞印刷費
委託費	500,000	0	
調査費	0	48,000	
調査費	0	0	
調査費	0	48,000	印刷費印刷費
調査費	250,000	309,338	
人件費	0	0	
事務費	120,000	170,249	合機代等
委託費	130,000	138,098	本誌印刷費, 印刷費, 3/17・18・19関西行, 実務研修基礎研修
管理費支出	3,660,000	2,403,304	
人件費	0	0	
事務費	2,560,000	1,879,802	事務費, 通信費, 事務機器費等 (一般会計として総額の70%)
消耗品費	350,000	359,992	一般会計として総額の70%
通信費	180,000	81,000	一般会計として総額の70%
事務機器費	730,000	367,010	一般会計として総額の70%
雑費	1,000,000	1,268,900	(法人税等負担金(本部))
雑費	300,000	128,900	一般会計として総額の70%
雑費	1,100,000	523,502	一般会計として総額の70% (雑費, 資料, 印刷費, 等)
対本部支出	340,000	238,520	調査研究費等(調査費)に 対本部からの受入収入
一般会計繰入金支出	300,000	0	
事業活動支出合計(B)	10,490,000	9,328,081	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	6,000	3,786,650	
予備費(D)	6,000	0	
当期収支差額(E)=(C)-(D)	0	3,786,650	
前期繰越収支差額(F)	8,782,567	8,782,567	
次期繰越収支差額(G)=(E)+(F)	8,782,567	12,569,217	

2015年度予算書(案) (自:2015年4月1日 至:2016年3月31日) 一般会計

勘定科目	2014年度予算	2015年度予算	備考
事業収入	1,000,000	1,000,000	
調査研究費収入	1,000,000	1,000,000	
調査研究費収入	1,000,000	1,000,000	本誌調査費, 本会議費, 拡大分科会等
調査研究費収入	0	0	公費
その他の収入	1,154,000	1,108,000	
借入金収入	1,100,000	1,100,000	借入金, 借入金
利息収入	54,000	5,000	
利息収入	4,000	5,000	
雑収入	50,000	0	
特別会計繰入金収入	300,000	600,000	
本部交付金収入	4,326,000	4,305,000	
事業活動収入合計(A)	6,780,000	7,010,000	
事業費支出	4,500,000	4,450,000	
調査研究事業費	3,450,000	3,400,000	
調査研究費	450,000	400,000	本誌調査費, 拡大分科会, 等
調査研究費	1,000,000	1,500,000	本誌調査費, 拡大分科会, 定例研究会, 本会議費, 拡大分科会, 若手講習, 本会議費, 取組研修等
調査研究費	2,000,000	1,500,000	
調査研究費	0	0	
調査研究費	1,000,000	1,000,000	3/17・18・19関西行
調査研究費	50,000	50,000	
調査研究費	20,000	20,000	
調査研究費	30,000	30,000	11/26法人化
管理費支出	3,480,000	4,030,000	
事務費	1,470,000	1,610,000	一般会計として総額の70%
消耗品費	440,000	200,000	一般会計として総額の70% (注)の科目他
通信費	150,000	200,000	一般会計として総額の70% 電話代等
事務機器費	480,000	900,000	一般会計として総額の70% 機器3台, のためハード基本料等
雑費	0	10,000	
雑費	400,000	300,000	5/16・20・21・22懇親会
雑費	1,180,000	1,170,000	
雑費	60,000	60,000	
雑費	20,000	10,000	幹事会
雑費	1,100,000	1,100,000	
雑費	830,000	1,250,000	一般会計として総額の70%
雑費	130,000	200,000	
雑費	700,000	1,050,000	
事業活動支出合計(B)	7,980,000	8,480,000	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	▲1,200,000	▲1,470,000	
投資活動収入(D)	2,000,000	1,500,000	
特定預金取崩収入	2,000,000	1,500,000	
特定預金取崩収入	0	0	
特定預金取崩収入	2,000,000	1,500,000	大蔵研収入: ¥801,339
特定預金取崩収入	0	0	
投資活動支出(E)	600,000	0	
特定預金積立	600,000	0	
特定預金積立	200,000	0	大蔵研収入: ¥801,339
特定預金積立	200,000	0	
特定預金積立	200,000	0	
特定預金積立	200,000	0	
特定預金積立	0	0	
特定預金積立	0	0	
投資活動収支差額(F)=(D)-(E)	1,400,000	1,500,000	
予備費(G)	200,000	30,000	
当期収支差額(H)=(C)+(F)-(G)	0	0	
前期繰越収支差額(I)	7,274,586	7,340,516	
次期繰越収支差額(J)=(H)+(I)	7,274,586	7,340,516	

2015年度予算書(案) (自:2015年4月1日 至:2016年3月31日) 特別会計

勘定科目	2014年度予算	2015年度予算	備考
事業収入	2,100,000	1,700,000	
構造レビュー等事業収入	1,500,000	1,300,000	構造レビュー, 実務レビュー
研究費収入	0	0	
調査費収入	600,000	400,000	若手実務研修基礎研修, 3/17・18・19, 本会議費等
その他の収入	3,407	1,000	
受取利息	1,000	1,000	
雑収入	2,407	0	
一般会計繰入金収入	0	0	
本部からの受入収入	8,392,593	8,320,000	本誌からの受入収入 ※本誌からの受入収入, 事務所整備費支出等計 ¥11,654,000
事業活動収入合計(A)	10,496,000	10,021,000	
事業費支出	6,190,000	6,600,000	
構造レビュー等事業費	5,940,000	6,300,000	
人件費	0	0	
事務費	440,000	500,000	1/14調査費, 資料等送付等
レビュー費	5,000,000	5,800,000	本誌編集費, 印刷費, 謝辞印刷費
委託費	500,000	0	
調査費	0	0	
調査費	0	0	
調査費	0	48,000	印刷費印刷費
調査費	250,000	300,000	
人件費	0	0	
事務費	120,000	150,000	合機代等
委託費	130,000	150,000	本誌印刷費, 印刷費, 3/17・18・19関西行, 実務研修基礎研修
管理費支出	3,660,000	2,460,000	
人件費	0	0	
事務費	2,560,000	1,960,000	事務費, 通信費, 事務機器費等 (一般会計として総額の70%) (取組研修費)
消耗品費	350,000	100,000	一般会計として総額の70%
通信費	180,000	180,000	一般会計として総額の70%
事務機器費	730,000	400,000	一般会計として総額の70%
雑費	1,000,000	1,200,000	(法人税等負担金(本部))
雑費	300,000	160,000	一般会計として総額の70%
雑費	1,100,000	500,000	一般会計として総額の70% (雑費, 資料, 印刷費, 等)
対本部支出	340,000	300,000	調査研究費等(調査費)に 対本部からの受入収入
一般会計繰入金支出	300,000	0	
事業活動支出合計(B)	10,490,000	9,960,000	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	6,000	61,000	
予備費支出(D)	6,000	61,000	
当期収支差額(E)=(C)-(D)	0	0	
前期繰越収支差額(F)	8,782,567	12,569,217	
次期繰越収支差額(G)=(E)+(F)	8,782,567	12,569,217	

# 2015年度支部役員及び委員

<b>●幹事</b>	小倉正恒 (清水建設)	支部担当理事
<b>支部部長</b>	横田友行 (能勢建築構造研究所)	
<b>幹事</b>	吉澤幹夫 (日建設計)	
	博田博之 (竹中工務店)	
	上森博明 (日建設計)	
	神沢宏治 (鴻池組)	
	藤啓明 (大成建設)	
	田代靖彦 (日建設計)	
	辻泰一 (鹿島建設)	
	寺田均 (昭和設計)	
	西村勝尚 (大林組)	
	細野久幸 (SDネットワーク)	
	梶田洋子 (桃李舎)	支部担当理事
	松浦敏彦 (テューエムアーク)	
	満田衛資 (満田衛資構造計画研究所)	
	宮崎英也 (山田建築設計事務所)	
	村上陸太 (竹中工務店)	
	安井雅明 (大林組)	
	山浦晋弘 (安井建築設計事務所)	
<b>監査</b>	近藤一雄 (東畑建築事務所)	
	辻幸二 (日本建築総合試験所)	
<b>支部顧問</b>	近藤一雄 (東畑建築事務所)	
	角尾彰弘 (日本建築総合試験所)	
	谷尾俊弘 (イオリ建築設計事務所)	
	辻英一 (安井建築設計事務所)	
	馬瀬芳樹 (馬瀬構造設計事務所)	
	八木知樹 (八木建築構造研究所)	
<b>事務局</b>	嶋崎敦志 (大林組) 局長	
	秋田智 (安井建築設計事務所)	
	伊藤敦 (日建設計)	
	伊藤祥二 (大林組)	
	岩佐裕 (日本建築総合試験所)	
	大植奈緒子 (コンステック)	
	貝谷淳一 (能勢建築構造研究所)	
	木下隆嗣 (東畑建築事務所)	
	橋本健 (清水建設)	
	前川元伸 (竹中工務店)	
	山崎英一 (大成建設)	
	石原邦子 (JSCA大阪事務所事務長)	
<b>●事業委員会</b>		
<b>委員長</b>	上田博之 (竹中工務店)	
<b>委員</b>	上森博 (日建設計)	
	島野幸弘 (竹中工務店)	
	塚越治夫 (日建設計)	
	藤井正也 (大林組)	
	宮崎英一 (山田建築設計事務所)	
	山崎英一 (大成建設)	
	山本康一郎 (能勢建築構造研究所)	

<b>●技術委員会</b>		
<b>委員長</b>	村上陸太 (竹中工務店)	
<b>委員</b>	村本義之 (大林組)	…RC
	福本和正 (大林組)	…PC工業化
	大塚越治夫 (日建設計)	…金属系
	野澤裕和 (竹中工務店)	…耐震設計
	川口正 (清水建設)	…地盤系
	篠原昌寿 (フレームワークス)	…情報システム
	松原由典 (竹中工務店)	…構造計画
	田邊太一 (鴻池組)	…法制
	上田尚延 (日本建築総合試験所)	…木構造
<b>●広報委員会</b>		
<b>委員長</b>	田代靖彦 (日建設計)	
<b>委員</b>	秋田智 (安井建築設計事務所)	
	慶大川正明 (鹿島建設)	
	丸丸久司 (日建設計)	
	田邊太一 (鴻池組)	
	中村本宗明二 (北條建築構造研究所)	
	平澤浩二 (イオリ建築設計事務所)	
	柳澤信行 (竹中工務店)	
	山田細功 (山田建築構造事務所)	
	吉田能聡 (日建設計)	
<b>●構造レビュー委員会</b>		
<b>委員長</b>	山浦晋弘 (安井建築設計事務所)	
<b>委員</b>	阿波野昌幸 (近畿大学)	
	浦野利幸 (ららっつみ建築技研)	
	樫原健一 (SERB)	
	日下哲 (竹中工務店)	
	近藤一雄 (東畑建築事務所)	
	辻幸二 (日本建築総合試験所)	
	原克己 (元 摂南大学)	
	福本早苗 (武庫川女子大学)	
	福山國夫 (防災科学技術研究所)	
	福政武志 (フォルムふぉらむ)	
	峯隆俊 (峯構造技術研究室)	
	森田秀喜 (安井建築設計事務所)	
	八木貞樹 (八木建築構造研究所)	
	安井雅明 (大林組)	
	吉澤幹夫 (日建設計)	
	横田友行 (能勢建築構造研究所)	
<b>●木造住宅レビュー委員会</b>		
<b>委員長</b>	横田友行 (能勢建築構造研究所)	
<b>委員</b>	上田尚延 (日本建築総合試験所)	
	大崎修 (大崎建築設計事務所)	
	小倉正恒 (清水建設)	
	樫原健一 (SERB)	

# 下線:2013年度関西支部体制からの変更、新任

<b>北山宏貴</b> (大林組)	
<b>鈴木直幹</b> (竹中工務店)	
<b>田村佳英</b> (悠計画研究所)	
<b>鳥羽瀬公二</b> (鳥羽瀬社寺建築)	
<b>野島千里</b> (野島建築設計事務所)	
<b>梶田洋子</b> (桃李舎)	
<b>●大震研委員会</b>	
<b>委員長</b>	西村勝尚 (大林組)
<b>委員</b>	園田隆一 (安井建築設計事務所) …WG1(基礎・地盤)
	上田博之 (竹中工務店) …WG2(RC造)
	西村勝尚 (大林組) …WG3(S造)
	前野敏元 (竹中工務店) …WG4(免震構造)
<b>●危機管理委員会</b>	
<b>委員長</b>	辻幸二 (日本建築総合試験所)
<b>委員</b>	近藤一雄 (東畑建築事務所)
	渡辺 勸 (ラミア設計)
<b>●定期講習WG</b>	
<b>嶋崎敦志</b> (大林組)	
<b>鈴木直幹</b> (竹中工務店)	
<b>吉澤幹夫</b> (日建設計)	
<b>●耐震診断委員会関西西部会</b>	
<b>部会長</b>	山浦晋弘 (安井建築設計事務所)
<b>副部会長</b>	嶋崎敦志 (大林組)
<b>委員</b>	阿波野昌幸 (近畿大学)
	浦野利幸 (ららっつみ建築技研)
	大崎修 (大崎建築設計事務所)
	小倉正恒 (清水建設)
	樫原健一 (SERB)
	日下哲 (竹中工務店)
	近藤一雄 (東畑建築事務所)
	辻幸二 (日本建築総合試験所)
	原克己 (元 摂南大学)
	福本早苗 (武庫川女子大学)
	福山國夫 (防災科学技術研究所)
	福政武志 (フォルムふぉらむ)
	峯隆俊 (峯構造技術研究室)
	森田秀喜 (安井建築設計事務所)
	八木貞樹 (八木建築構造研究所)
	安井雅明 (大林組)
	吉澤幹夫 (日建設計)
	横田友行 (能勢建築構造研究所)
<b>●編集委員会関西西部会</b>	
<b>部会長</b>	藤井正則 (大林組)
<b>委員</b>	阿波野昌幸 (近畿大学)
	太田寛 (鴻池組)
	小堀太志 (竹中工務店)
	小倉正恒 (清水建設)
	佐藤啓治 (大成建設)
	白沢吉衛 (日建設計)
	山浦晋弘 (安井建築設計事務所)
<b>●国際委員会(本部)</b>	
<b>委員</b>	嶋崎敦志 (大林組)

## ●事務局だより

- 1.2015年度支部総会 5/22(金)  
建設交流館 63名(委任状295通)
- 2.幹事会 5/15(金)
- 3.四役会 3/27(金),4/24(金),5/15(金)
- 4.事業委員会  
4/23(木) H26年度 事業報告、  
H27年度事業計画について
- 5.技術委員会 4/27(月)
  1. 技術委員会の年間予定の確認
  2. 各分科会の活動報告
  3. 2015年度定例研究会発表内容の確認
  4. その他
 ・定例研究会対応WG会  
3/16(木)  
各担当者の割り振り検討、発表内容調整 他  
4月14日(木)  
発表PPTのまとめ、時間構成調整 他
- 6.広報委員会 4/17(金)  
Structure Kansai No.126編集、No.127号企画会議  
7/16(木)  
Structure Kansai No.127編集、No.128号企画会議
- 7.耐震診断・補強判定委員会関西西部会  
4/16(木),5/21(水),6/18(木)(予定)  
耐震診断・補強計画判定の報告
- 8.木造住宅レビュー委員会  
4/1(木) 実務講習会について
- 9.定例研究会  
5/22(水) 建設交流館  
「非(?)構造部材の構造(?)設計」 150名
- 10.大震研委員会  
○JSCA中国支部総会並びに講演会・技術発表会  
6/5(金) メルパルク広島  
大阪府域内陸直下型地震に対する建築設計用地  
震動および耐震設計指針概要 77名

- WG1(地震動・基礎) 活動なし
- WG2(RC系) 6/22(月)  
課題の確認と今後の進め方 8名
- WG3(S系) 5/28(木)  
今後の活動方針、柱脚の性能について  
プレースの座屈挙動について 12名  
6/17(水)(予定)  
今後の活動計画および検討事項について 7名
- WG4(免震構造)  
5/12(火) 今後の活動テーマ 10名  
6/2(火)  
衝突の応答等解析モデルの提案、神戸大学で行  
われた衝突実験の速報、建築学会シンポジウム  
「構造物の耐衝撃設計」の検討 16名
- 11.支部報  
Structure Kansai No.125(2015.4)発行  
Structure Kansai No.126(2015.7)発行(予定)
- 12.技術委員会各分科会
  - 地盤系分科会  
3/6(金) プロジェクト紹介、技術紹介 17名  
4/22(木) プロジェクト紹介、本年度の活動方針 13名
  - RC分科会  
4/17(金) 「天井の構工法」について 14人  
6/19(金) (予定)
  - 金属系分科会  
4/22(水)  
講演「JSCA構造デザイン発表会2014より4題  
紹介」 15名
  - 耐震設計分科会  
4/17(金)  
大阪府立成人病センター現場見学会 13名
  - PC工業化分科会  
6/4(木)(予定)  
PC建物設計事例紹介(予定)
  - 木構造分科会  
4/1(水)  
新規会員自己紹介、会員近況報告(課題提供)、  
意見交換 24名
  - 法制分科会  
4/14(火)  
建築法制に関する最新情報紹介と意見交換、今後

- の分科会運営について 6名
- 5/19(火)  
建築法制に関する最新情報紹介と意見交換 8名
- 構造計画分科会 拡大分科会  
4/8(水)  
通天閣耐震改修工事現場見学会 20名
- 情報システム分科会  
3/26(木)  
魚骨形骨組地震応答解析プログラム「fish」に  
ついて 3名  
7/15(水)予定  
「構造関係技術基準解説書の改定」について
- 13.サテライト活動  
○京滋会 活動なし ○奈良会 活動なし
- 14.講習会  
・木造組構法の新しい耐震設計法がマスターで  
きる実務講習会  
4/1(水) 10人 6/3(水) 15人
- 15.懇親会 5/22(金) 建設交流館 109人

## ●編集後記

ご多忙中、貴重な原稿を執筆頂いた皆様方に厚く  
お礼申し上げます。  
また、会員の皆様の技術系分科会への積極的な参  
加をお待ちしています。  
これから暑い夏が始まります。健康にはくれぐれも  
ご留意されますように。(編集担当 田辺、平石)

発行 (一社)日本建築構造技術者協会  
関西支部事務局  
〒550-0003  
大阪市西区京町堀1-8-31 (安田ビル)  
Tel 06-6446-6223 Fax 06-6446-6224  
Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp  
URL http://www.mmjip.or.jp/jsc-kansai/